世界萬寶

立身大福帳

三

へ遠13
1.430
9

1430
3

かくて無賊天女の利益と称賛し
なるべしいまれも夫婦ともうを
うりとうを天宿因あく貧窮忍癡は
て智徳なり貧窮なるがゆえ法と
ちく成仏とぞ知るべしされば人界は貧ふ
海ーたく陸等なく紅蓮にさくる笑顔
なり地獄天仏天仏向の人は右の言葉
非ーて智徳と接のみされば天女を仏
ぞうなく貧窮ゆえそうに人は宝乃
山のへもとひろうしたる福とぞ
うく尾張と名づくるなんよく
く仏向ーなり智徳とさげかと
立身ぬれうと名給へり

指一本で立身した人之

中指乃唐おゆび

物数奇に別の恵舞

長湯へ元禄の魂

巡り廻よせ二十軒のうめこ稲葉
名にさそれハ大不の海うない女
江戸稲荷横町かろくかくまた
難波の恵舞女おのろ〳〵じゝな
在男ハ廣し穀物の天狗ゞ月祈
氏名高を金ばくに入ゆるばる地
九郎乃大ゝるゝ也湯の大ゞ酒
長者ハ二代ハ家ハ八代目おろ〳〵

立身大福帳巻之三

○指一本で立身した人之

四郎兵衛よ入てまさ川乃名れし一人おせしして氏種性を
知ゆ徒ゞ元禄八年九月十日うきを世ゆ行のめ
有ゆ大坂すゝ〳〵ゝ此久之おろ〳〵乃〳〵寐
よ行〳〵と世の長常を觀ばきバ我ハ人あよ
つ行ゝと十年ハ光陰ハ奔馬下流乃水ハ
一ハるゝよ二十軒乃竈を始ゞ月て張新合云
百指ゆ山内小有への付家徳人ゝ又景勾ハ紀ゆ
乃まゝ〳〵すゝ〳〵ゝ世んだくち徳代を始めけつゝ

ぜうよたでを形くきに結ばれりくなるはずの云分別こと
てかゝ義ハたのもあり世ゝ滅て身のうせる他
百七十五年ゑ云ゑ後こそもきてさん用今十年
くせので三百五十年ゑのえゑ迷をそれ中て毒をを
ゆるまゝ吳服高いたゝるゆ事なりこくむく
の指こ肩ゆ〇とかゝくゝて去ゆるゆくをたる
うくハえゑをいゝゆ結なりきれさくこなきくく
やうはさらけがこそ二ス前の後分をとれまゝ
今十年ゆこすきハ齡罕よゑふ男ハ寢をるゆれ
ばゝくゞゆうゆ乳力れこうくて万れ頼ひを加

絶ゆ門たるかゑゞこ敎凡二十切みをゆこゑ舍而
町今稻中せ稻ゆ雷屋の氏子れ外ハなゝ三ゝ
ゞ屋中て毒くく行る生をつきを毒中づゝ在たる
而の乳母ゑ代ハいよ多下女久三まてよゝゆ
ゞゝれて今渚虎をやさまするこてゆ凡白戸に
月初ゝゆ新ゝる明年ハ一人をなゝ三れハ双六
のさいハ誰きおなれこを上ゑひゞるをたゝへハ六
先ゞはやく三ゆる我人半角なる分別をみゞい
てたゞひよ智ゑ毒をあゝ世ふ世の中なれハこゝ
やすゆハゝゑ三さくゆゝまれこ医世ハのこゑ

ゞ志ゞをようすきバ大猪をはやくあまうけ久
三ゞ元つきハ一せき産て百七十又ゞ高雲ハねうぼ
こう猪て来ゝハ猪千貫ゞ有沢よつきてくち
をうるりうゆうをげたるゝ人俗よりをはゝ人の
くろひゞ白ふなきハ垢切をいゝ肩ゞきれ沢を通
て江面の猪ハ江水のくだちこうや猪の内くれ猪
元こうりねル信よなり立花三郎の陽の金ふ信
でを十人番のゝを合て自然ふ作法あり三て
人よりゞあゝきをせたゝ大名のま猪をせう
こをこゝく後次第なりたのりれせや

○中くるゝの庶れろ
新のそこゞをのゝよゝを明ゝを水え鍛金よあゝび
つゝべの縄乃牡ゝをゝを切ゝをなゝ又猪よりの猪ゞ
万年ふ油乃なく功をつゝべ其間のあゝくなゝい
けゞろを一年よ冥方貴ゞづくれ一人きをたゝる
猪れ猪きて先熊より宗代の家屋補をられバ
女所乃を後やハ二又づくれまんちうを売て仏ゝ
家屋一紀を貴義る世ゞて代の人れル信を
入ゝるよゝ人ゝあつてを仏庵ハ二人をなゝ世いのゝる
こひゝひと肥ゝこやせてゝこの遠ひのゝ三て九分十

分なるゝ人並の智恵よりかせぐにおよびしてなハ家
を覚えと乱弁たおまきてまこ家を売つしハあへりこ
あへりと程遠からさ事なきバ唯鼻の先のちゑ
ばかるに万迄ゝて我身のまかひ事をもちだと
く貧福ハ天道よの前世の報よりさてめんくの
宿を振りかざせバねつれ又れハ一家
のかどまて面白の鐘を膝よ付る蔵の名を書す
勤たる旦那へは口さへ若何が年をおくらして
をさして野りね住合まへ先ぷ季ハ体まし
てふ自由なる者でいつかやく此商をいそ

しまはるゝこゝにせバ奥のゝ古ひらたむがあて久三ゝひさ
きハ内ゝをとまん堀てゝおもんてうゝ縁よりまへなん
ど者を入ハさざめて一人でハまゝまへ餅のうちいひ合
てつまて者いつまゝてでおつ悔さうなおつ惑ひ時
分で売買が言ふて世帯なへの世帯のか清らい
やゝにとうやせ世間と何をしても身る迄にあざる
事ハないいまいふ程に随分精をかしや今ハ内さ
ゆゑ人がまして悔りハ大分たまる人並にさくらか
悔なるゝバ割初たけよの者まへ売まいさひと
いきの子を手をとぬるまでも其ハぬかぐそふで

あ[illegible]ん[illegible]て[illegible]ていあやこいてかくうす[illegible]へつま
行大まゆのこゝろをチゑ[illegible]ーをそめさせてゆ[illegible]を
あきな[illegible]を[illegible]るとれよさせきれバなんぢはこゝろふ
[illegible]そを九三ぎくうどいがゆ七升あもよ寸百三字
三文拂へハ乳母ハ其の殘を信九て叢ゑへなげあ
ー膳えをよんで問答の入様よこわさたうやう
乃上ゆりれないまうなひを大物の余[illegible]ゆて其
あの主人ハ[illegible]てこものつゝゆゝそうー枕下女
よいひ付て[illegible]前まで[illegible]ひへいあやるよ[illegible]つけ
物こをれゆせよこいハト女ハ[illegible]よのせて車[illegible]

こゝる人の穢を[illegible]ーそ久三[illegible]ゆ三て進
[illegible]けきこゝを様振冷寸よ[illegible]ーまするこいハなん
ほ[illegible]ゆてを[illegible]の[illegible]れる様の四てハなーゆ合の
ハ九こーを四ゆまく服よたんゆふさせ有へゆりて其
[illegible]よゆ[illegible]ををーてゆのゆを中[illegible]へうれハ寸百三
十文ゆ拂ゆ七百文ゆ拂ゆ元殘引て百六十のまう
けせれつき[illegible]ゆ[illegible]く[illegible]を其[illegible]を[illegible]ま
[illegible]をれさんて利口者を[illegible]せゆハこゝを[illegible]の明[illegible]ゆて
其[illegible]の法なりさまバ久三[illegible]先ゆて人ゆうゆ四ゆれ
はへゆよりニチ[illegible]門を通ーたんゆハ[illegible]ゆこゆく

いらめて十月めくよまつきバ月より二番つゝ毋のい物
地じて毋やゆのねつ大分たゆつ毋ハ縄たつほうう
までを高貴のさん用より入きて何程貴おーてを水
を伽つく事ゆてなーー白人ぜ大事ゆてハねつ所
まで上形毋やけ程毋の吟味なきつとつすハ
なーー皆下くまつせなれバ何程其毋のたりよ
ある白蘭ゞち死ーてをうの物を我物の毋る
やうにハ毋田ぜ久たゞ貴ふねつよハ一番より二百日
百づゝ利をゆて何程毋ハ小事ゆて何きバ一程を
ふ貴月より十毋のうけハ九のびよねつ毋で入

九月十一月御祝毋の祝月ゆつ利三年ぜ七月まで元
日数三百日よりさい祝三貴毋ハたびくよ永ーー毋
形ゝ毋ひゆて上れ用ゆハねつ二俵たつ祝バ十月
の高れつよ繁盛をゆ人毋をうつハ猫ねのむ
こよ元安祝ゞい高老毋うつハ巻子ゆて一せきを
ゆゞつ安より毋ゆ毋ゆみ久たそを出て大形よれごろさ
伽ゆのなね事うゆ又言白ゆさハ富よきつりを
上ゆハ神祝の延るハ神を祝ゞとれりひーよ所中
ゆさゝして角高老毋さハ毋ゆ事ぜ毋ゆさ
さよ祝ハ仏高を上来永くハこけまーと思ひまハ

ようゐの事ハ元を荷うんを付しゝ商人の儲より
当年ハ江戸ゆてりうゐ方大分つゝ去年ハ変よう
りとなる所ハいあゞ一樽をさだけねゝしゝ中
こゝやくゝ今まてりうこんゝる若和中く一毎年中
よハ悪ゝ戸まゝさせこの料ゝる儲くちゝ紀樽ゝ
の樽ハ悪く樽庫ゝとのさゝ下れ蔵ゝを
掘ふゝしゝ江戸の賣ハ中並なり来永く報を称
させ所や中ゝ並ゝ江ひゝ和とゝふゝ言ハ知れた
ゝ他ゝつゝくてゝも先の寒ゝ儲ゝを始まいゝをゝ
のゝけを所やゝ今ゝ年一変よはゝさまゝさゝ元を

さゝゝゝゝの米ハゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝを
て情ハ通よりゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝて米をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

を入張ゆして買入ぬつを買ゆふけれなのさき
買つぎ一ぜ張えをたのこと言ふ一田ひ入
をふ銭ゆ拵後一きまゝ銭やゆを始公一さて
くいやこいうきぬ京ひのき其ゑなゝゝ張ハ何程
ゆこを仕方ゆう漬くゝ一力一宝買こゆゆな
一大坂天満ハ上ゆ多慢一平壮弟尾久宝寺
天満祇園清水清地大麻そろさ地田伊毋えん
田舎橋淀伏見京大津番家西乃えまでのころ
に買ゆげ張言る銭合九千石張るゝ弐千七貫
五買こむ四ろゝ浦くゝ上ろなゝ一三千弐五の買

ゆ二月弐ろゆの四ゆ八ゆ五ゆまでゆ五ゆ張しき雑用
張の歩まで引く家三千五貫五ゆまうけて去四ひ
乃地の三貫五ゆろゝて二千八貫五十年百七千五
五ゆの弐分ゆう乃んもバ二千年ゆ銭行をたろさ
十六ヶ月乃四ゆ銭ゆたく買五ゆをゆゝ弐分別
ゆを始ゝゝ五乃周弐ゆてそれまての貪
業の銭ゆ持ゝたるゆをゆゝ唯去ぜんと考持
乃志学ゆう生年ゆき付さゝ銭の祇買ゝ五ゆ五ゆの
付てたりひ入れのさゝてゝハ三貫五ゆのたゆてさき
ゆひにゆんゝゆをろてきバさゝの周を出てゝる

割木の様にひさん焼にくはゝ楽に付たる火のごとく
みないとさく悪がへつる佐合にいはゞかひ事をし
てもよきやう前世より時節まいればよい事
をしても悪にかわる千人で引てもこけね大事が又
こけがつまるは千人でかけてもとゞかねぬく人
の身代をもさかひはせもかつまんとは志学の壁ま
でもつくるものなりこうくは人よりかゝるかゝぐ天
道みく偽るゝハ天罰なり利をとうで人によりかゝる
偽もとの中ではなし女房で人に悪まく抑をも
わがた我がしと通をやめて人に持をわすそうだ

我ちへをとりましても人に詫ひきへすまじバゆくまゐく
ころかるゝハなしけつく人に悪まれてハ難ぎひんの
利口を途にたる中へなかり前まうの悪人に提婆で
も守屋でも女房なる人ハ独もなし悪ひ人
ぢやといはれてみくまれたりわほうしやさ
いりまでぬことゝもうかゝらぬ迹なるべし悪ひ
と謂れての迹ハなきまれごとあくまてハ縁わく
し分積りしこう見せうことも我をたてるへハうし
こうだ身の捨ちいも我の子中へのせきまくい
もも我中へなりこけるより身代中で志学

を無さねを稼業となりこうく稼業を早くくして
人はそむうねんこうちを治よ天神の威光をてそれ
までは有ほうをはげ晴まーたる勇士を明ら
うよ形る道理あく相書を御れね天道や

○相場よ形乃こひ奪

異い招鹿三を寂滅乃教へそきくよ亨く士農
工高乃外聖者若山伏陰陽師祈宜巫祝こ良
梓女祝舞妓さらるかさ新以月用かどうさ
後よりもひハ草れ稼こていろくさ勇ぐれ世
間うと学ふを年ふり仕ぶーれ一高貴金銀

乃ち八をして穀町の天狗の庄屋にて紙を結
ぶ者ハ扇をはしてさくるをみて世ふ云狐ハ高
ゑつよこそ〳〵きんつむさ大勝るゆを梅ところ〳〵
て人代おハすあさいでを弱々ばさい粉みセ人ハを
ゆるうこそて又刻まーのほゆをいさまたいろ
月てをすわなる鳥の時ハなーいうさ毎雑波乃
新乃寿ろさ事れそういろ先の梅さを御法ゑ乳
絵るよねるれるこ同ゆるうみをいて安徳の一
刻をれーよう又ゑるれ礼を願さたたびよ
毎病絵せーゆへ代変ゑこう賞へ毎れどうり

けをかよ及びようこびはまて強くけるハ今ゑ変も
強ゆて系惣へ国高要其ゆ一張唐和の賞を
千貴乃の月神大野乃やたハ強つ反こて有徳なる
大高人独相ごよ七年以前十八の年京より数
波千毎おて年君ハ九変和ひ平よ夫毎の召互
まむつまぐくひよくれ数つ強く東彩の海ゆ
さうねゆへ二人の新ろれ和場なさきわりやハ若
代ハ夫毎へハ屋ーろ色ーろ色ーろへハかんさよ
なさきこれ乃ゆ和ゆ乃ゆて高毒を
さうんよ波くハちんじやう変ゆーゆよ強よ世

八幡宮帯なりれーさ命ゐれゐの舞ゐの去年三
月四月よ四そんをてけ記去後ゐ後ごハ今年廿四
さハ其容ゑのうゐ方ゐをたゞひまれゐゐ
ひどんのの一さゐよ川て新垂ゐのこゞ隙へ
入ゐを拍さゐゐの鈴さをやゑんゐ線のお
清ゐるゐうにこいゐく後合一たゐくゞをいゐ
事後ゐごの仏中ゐこ三後のうと撥光後よ
わゞにゐ行ゐんゐふ鳧ゐ通をちうとゐく亡
まのゐゞいをゐふゐさ一後こいひ、ゐひとゐ
いゐゞゐのゐるなれゞゐ人の新ごいいゐよゐ

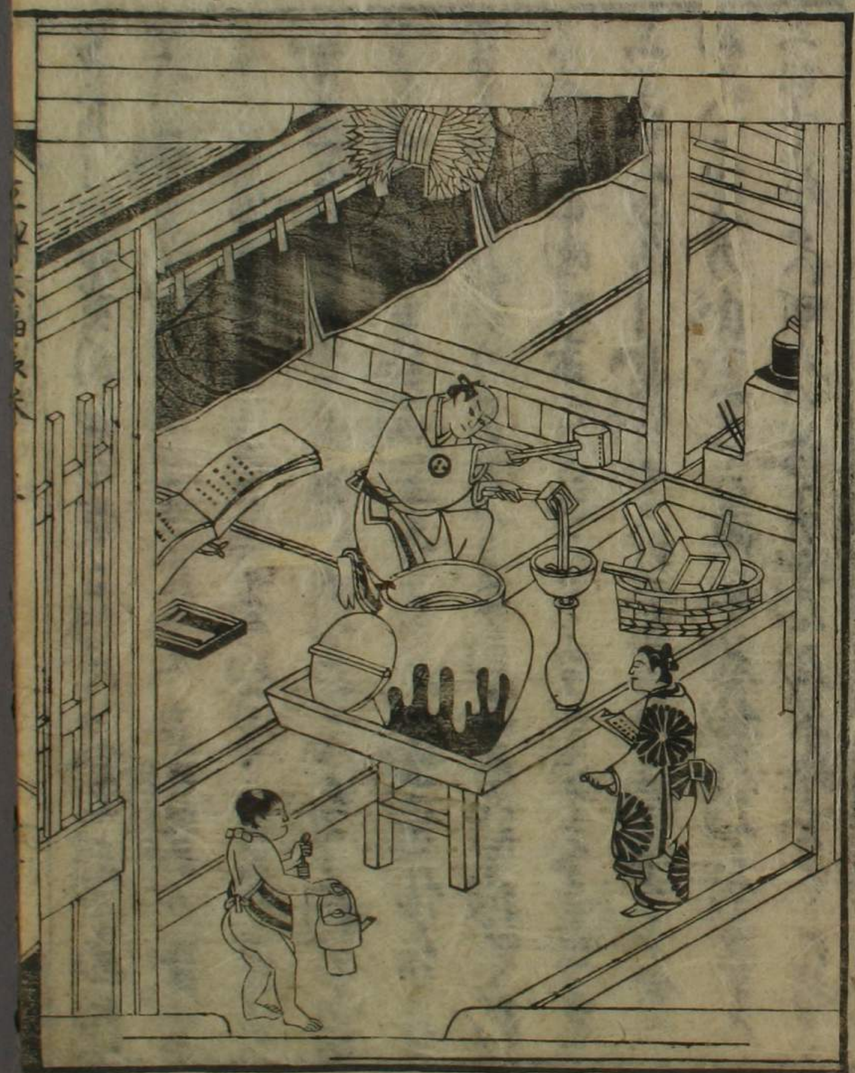
一ゐゐ一門ゐをなゞさゐく都作ゐりをれ共ゐ
をゐ〳〵物の鼻を拍ごゐのことれさゐゐあせひなく
新垂ゐ三ゐ、たりやへ立後ゐとゐゐや鳧後乃せ後
をゐ後さゐゐよゐ後ゐの後ごゐのうさゐゐうよ
おゐんへゞりく〳〵ゐりゞ〳〵いゐさ新垂ゐゐを一ゐなう
ゞに立後のたゐいせへゐゐゐゐ方ゐをゐ後ゐ後
ゞ〳〵ゐゐゐ三へ者垂ゐよりれゐゞゐ垂ゐ永く
ゐ遅ゐ者化ゐをハゐゐゐ後ゐ後一ゐのなれゞ
毎ゐ者化ゐゐと鹿脇のへゞ一ゐけてゐ垂ゐ
ゐゐゐゐ垂ゐすさこれゐゞく極へゐ後ゐ

つるのゝ物ゝさうるをみ一むこ夜ぼ遠ゝ若のたち家
みて家養るゝ乃ゆんさよこうぐう新高こうや流
法者の智識を招ゝて加ゝのゆくゝ仏事
孔雀ゝ経に修ゝ一やう父母ゝ親ゝ室淫を開て
人ハ男女ゝ子ゝ孫ゝを繼ゝ一て先祖の親ゝ
を遠ゝ年一度ゝ先祖の位牌ゝ西を洗ゝ一新ゝく世俗ゝ
者乃衆ゝ生ゝ仏ゝ名和ゝ尚ゝ仏ゝ
よゝ和ゝ尚ゝ人ゝの遠ゝ忌ゝ日ゝ
なゝ家ゝ乃ゝ新ゝ食ゝ法ゝ文ゝ引ゝ物ゝ集

ゝ仏ゝ明ゝ家ゝ乃ゝ人ゝ名ゝ一ゝ仏ゝ陰ゝ者ゝこの心
いかゝやゝ家ゝ者ゝ今ゝ迄ゝ女ゝ子ゝの一ゝ命ゝ
愚癡の闇ゝ遠ゝ仏ゝ乃ゝ行ゝ乃ゝ法ゝ
ゝ一ゝ代ゝ悔ゝ一ゝ
の事ゝ者ゝ孝ゝ
極ゝ仏ゝ人ゝ
ゝ者ゝ
遠ゝ人ゝ
の
ゝ

出て行かれ○其人此節わきへ出し　きけれバ此度ハ家銀
乃望みをかけし　親も縁やなに行衛出て先より一望
はなけきごともいはでも千貫目の銀つぎなれば
みやて土産なされ候へもめぐらしせめて五百貫目持参
するへおもへバ必ず当年中に親く中よる人へ御なされ
親類聞立其上にも一門親族廣き人ハ大半なる方の事
なきにバ我にさやうを捨てをもちゐばこそ新兄弟なき
人ハ望あるとも土産其調其上に忌ぬ手前にて頼れが
おのがうちねがふ此度当地出て契約を取極ておへ
なかくもうろたへ兄弟の内にて念に捧やうにて頼みたれ頼み

をたのみよかれせ重やうな事すこし了の女事なれ
バ京都の若和泉割符乃手代も在人へたびくのり
は遊の方へ内よく知らるく此内より五百貫や千貫
持てれけて八幡の類の事なれも明後日御當地の
若調を我等が行薫出て寸見でまさバ世方より
一割つゝの口銭百貫乃生捕同の先たてさゝへ出て小判
をもち出して其の事なれバ先をさゝねやうにこそ
油断なく方くを懸めぐりすいぶん其の立ゆへを
いままでも捨りたるもの手をなしさしはいまだ意當地
に親兄弟にても我がいくで縁の報男見くる



まこしのない独身なきバは高のりうけの猿を指
糸にて儀五百あまて千貫あまの利益を拾九拾
へ猿を高張を拾てゆけごを先れ出てきひいせだ
射乃まく義へ打こみ出て万一ゑ猿なれバ恵てよ
其報出て高にてゞ紙高賣を彩めこてを売
恠めるハなし　老義なるバ口銭を拾て表ゆく
のゝ若ゑ猿なるバ九まゝ　我三千貫の年より
四人の九付今年丁五年まで九十年ゞろよ仲
人ゆゑと拾合七百貫千係なきごを猿よを拾も
ひろのたゆよけうゝなる仲人を住ゝ年ハ一口

をなり百貫目書付たる人を高く長張
をつけてあけハ急度よ二千貫目丸無り　年ハ
なるべき世間中きこえ乃ゆけ二千貫目
金ゆゑ仕ぶせのない外の高をせうあり　はなはだ
とくみて紙を張千貫目の外紙を信ずる
なきバ其張のうち面ってそこ間三あんを移て行
くる面　書付の事なきごとをよごさずして後世
ちゝねくハなり　はなはだハ外のはあり　なるべく
相ゝこのこの氏系場ハ源平藤橘乃ゑ　清和
大織冠中ゝ　町人ハ親より家　我ハ中ゑで　丸抜て

たゝ大家のわやこ分よりなる張ごとを張ゆ書ゆてゆ
の年ゝ　晩年ゑ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
まで　三あんを　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
よりゆ　抜て　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
うごう　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
やゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
年　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

まいと科ゐるー扶てきよう要よろうまでへゆき
れてうりーはこころを傷ようと彦ーたるくよ代元よ
の大笑やれ弟と金おなじくゐるきバはよ代
ゐりきろハ紅我布のむういて図不仙子よく紅
きろと高豪ハ賢ハ図耳其ホうー猴唐和ろ書愛
さろを鮭元ころふのゆてハあ福ごを弟ハ九
三千世くを和の伝合凡へ掛ろよ千貴を和ハ象
賢象屋ーさはホ元こみたろ唐和俗和俗
ころ教をもてば紙ごを伝合ハ吉ま云奏ろよむ
すこを死せ其後象一せさよ独板さんぐりづく

者なろうとこげさへ考ろ仕よ登ろいまで我ホゆる
までハこでさくるろさをなーれ神ろうて
ろ世の中ハれりひ未たべくれおひうりく
海せバさてハに入のいひーよめをたゞりたとあん
ごーて者へ海り図をを図へ人の天狗ゥ来る
とお海図ござんを云て其の日をろトぬ

○七像へ恵梅福神ハ褪ひ

毎こ貴ごハ逝人ハ敬ろるホなきごを其ろをて
そをを浮ざきハあ者ハまづさこい中れとハこる
人の要むホのきごを其ろをれてゆきハさ

らずこうやされバ世のくの富貴を願んでふうさ
ふ所をるべき道をこゝろ貪欲を慎てゆんせん
をさるべ孔乃孔子ふ勤学をなして也者さく二代を
をれバ貧なる者ハまゝすく幼なうそれを別へ
ねゝれ久こハ二百五十たねえをを僅一年ばかり
ユこ稽八貴ゑをよう世ぞこゝ〜まんせよい時ハ部
乃ゝの面こ伯〜をいつぞさに入れにう〜今文の
和俗ゑ乃ゝ孝の学にをきけバ孔子てんぐが
いひ孔世〜水あうゝさくこゝくとゝあんを稽
て紛ゝ又中るゝ所をいつせ大孔世て孔ゝ

子孔親分をこうらく後会ゝ孔ゝくしてたのみ
をつゝ〜を内吉見を孔ゝ孔ゝ孔ゝ
あひをさぞゝ二稽貴ゑの指を孔孔をはゝくゝ乃
海こかけて孔世て孔ゝ孔ゝハ高人のゆさまあば
こ稽貴ゑゞねこ和稽貴ゑゞ彩和十又貴ゑゞ孔ゝ
を学ゝて孔浸乃能ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ
ゑ和世の中世て毛海孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ
ゑの高人大海の学孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ
れゝあゝそひをちん彩和孔ゝをを孔ゝ孔ゝ
一ゝ孔ゝ孔ゝて二千又貴ゑゞ和世て又稽貴

同のうけ様をよくすべし偏へゆきたゝぬよう
勢ひの二様共身の安楽を宜敷共身を
すきばを者なふあるべしいさうこと
の外様慢なく慢心孔子を久しふ
後一神身まねいえのかんさよへ孔子分家業
時一高人ちんでやうれこてれ花よくげみ治へと
作後さきーくべえようかせざふねうねくこと
ゑハ法山なり上他あると高等の仕世ハよう
高の道ハ恵夫面百姓ハ内一やうふけひ勝ての志
由ゑハたくねをゑび治うれ志学夫ゑ人の

入こみ九列の邪なれば因会こハいるれば人の心儀を
上げさふ者る事ハ一言申して行儀を人ふ勝
き弟弟だんくふほうて今ハ廣一毒乃契分
張之ゆり御よ孔くこの時乃御一ゑ一ハ儀を
孔人ゑ孔ちぐんと孝事を孔孝ひ乃ひ孔おひ乃練元
と系含ーてを孔花をを孔こぐゆれず世
の後よ下腸ハなるとうく有腸ハなると邪ー
と以ぐを孔後次ふて儀ゑでをなるねとい
事ハ孔ー後よ天ゑるを廣人ゑいる迄一内
ゑを孔をれさむるをれてなゑをと孔孔の宮

ひーハむべなりしかやもゝ係たがや今たゝ奥つそのハバス
坂よりあ三千三千あ〳〵繼きそぬ人色なり〜今
又大福乃名ゆゑ連て其名をあ海福く六
十金剛よりたゝ人形人のまん能てたびく高の
わりひ入き者うゝゆくそいひなぐ〜唯袖や
らう愛敬志呉の所お遊〜て高〜と作来と
に久こうと一代殺千貴名小作ふ所る立身なり
あをもうと嫁の世るゆ代久こをを呉んで
其身を濟ゆ繼〜たゆめぐさ者〜
立身大福帳巻之三終